

食品薬品部

○農産物中残留農薬個別試験法開発研究（ジフェニルアミン）

新山和人，青柳光敏

北海道立衛生研究所食品科学科編，残留農薬等に関するポジティブリスト制度導入に係る分析法開発－残留農薬個別試験法開発分担試験報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成20年3月

農薬等のポジティブリスト制度の施行に伴い，現在までに残留農薬公定試験法が確立されていない農薬のうち，ジフェニルアミンについて個別分析法の開発を分担した．GC/NPD 及び GC/MS を使用する分析法のための基礎的データ（保持時間，定量イオンの選定，検出限界濃度など）及び試験溶液の調製法（抽出及び精製法など）を検討し，10種農産物に対する添加回収試験を行って有効性を検証し，農産物へ適用する分析法（通知法案）を作成した．

○平成19年度食品残留農薬等一日摂取量実態調査

新山和人，青柳光敏，久保亜希子

北海道立衛生研究所食品科学科編，平成19年度食品残留農薬等一日摂取量実態調査委託事業実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成20年3月

国民が日常の食事を介して摂取する農薬等の量を把握するため，平成17年国民栄養調査における地域ブロック別の食品群別摂取量をもとに，飲料水を含む171食品を選び，これを14群に分けて均一化し分析試料とした．各群について GC/MS 一斉法により56種類の農薬を分析し，各群ごとの農薬摂取量を計算した．

○生薬中の有機リン系農薬の分析並びに有機リン系農薬の漢方処方煎液への移行

佐藤正幸

合田幸広編，厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「生薬及び漢方処方の有用性評価手法・安全性確保と国際調和に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書，国立医薬品食品衛生研究所，平成20年3月，pp.81-102

補中益気湯においてキナルホス，MEP，DMTP，パラチオンメチル，マラチオン及びPAPで最大31%，半夏厚朴湯においてはパラチオン及びパラチオンメチルで19%及び28%しか移行しないことが判明した．

微生物部

○慢性活動性 EB ウイルス感染症の病態解明に関する研究

岡野素彦

平成18～19年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成20年3月，pp.1-44
慢性活動性 EB ウイルス感染症において主にウイルス学的，免疫学的検討を行い，その成果として主に免疫不全の程度や感染標的細胞に異質性のあることを報告した．

○慢性活動性 EB ウイルス感染症の病態解明に関する研究

岡野素彦

平成19年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成20年3月
慢性活動性 EB ウイルス感染症では，感染標的細胞の違いや免疫監視機構の働きの程度により，その病態に差が認められた．このことは，本症の診断や治療法の選択に寄与するものと思われた．

○2007年の北海道における麻疹について

岡野素彦，長野秀樹，地主 勝

清水博之編，厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討」，平成19年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成20年3月，pp.93-97
2007年度の北海道における麻疹の発生状況に関して検討した．小児麻疹が461例，成人麻疹が381例であった．サーベイランスの充実とワクチン接種の徹底が肝要であると思われた．なお，分離ウイルス株は，すべて本州でみられる D5型であった．

○レジオネラ属菌検査法の検討1 効率の良いコロニー観察法と生培地の比較検討

森本 洋, 宮坂次郎¹⁾, 中村昭子²⁾

倉 文明編, 厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)「迅速・簡便な検査によるレジオネラ対策に係る公衆浴場等の衛生管理手法に関する研究」平成19年度 総括・分担研究報告書, 国立感染症研究所, 東京, 平成19年3月, pp.123-137

各種市販選択分離生培地で実際の浴槽水を検査した結果, その種類及び製造メーカーの違いにより検出数, 種類, 集落形態・大きさ, 出現時期等に違いが認められた。これらのことが, 検査結果に影響を与えている可能性が示唆された。出現集落に斜光をあて実体顕微鏡で観察すると, レジオネラ属菌は特徴的な形態(模様)を示し, 雑菌との見極めが簡易になり, 培地上での正確なカウント, 複数種類の菌を効率的に行える可能性が示唆された。

¹⁾熊本県保健環境科学研究所, ²⁾函館市衛生試験所

○北海道における HIV 即日検査の結果と感染状況

澤田幸治, 長野秀樹, 伊木繁雄, 地主 勝, 工藤伸一

今井光信編, 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書, 神奈川県衛生研究所, 茅ヶ崎, 平成20年3月, pp.178-183

道立保健所では, 2004年4月から無料匿名 HIV 検査に即日検査を導入し, 受検者の利便性の向上を図ってきた。その結果, 受検者数は即日検査導入前に比べ, 約4倍に増加し, 検査機会が拡大された。

○北海道における HIV・エイズの流行状況と遺伝子モニタリング

澤田幸治, 長野秀樹, 伊木繁雄, 地主 勝, 工藤伸一

武部 豊編, 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「アジア・太平洋地域における HIV・エイズの流行・対策状況と日本への波及に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書, 国立感染症研究所, 東京, 平成20年3月, pp.61-66

HIV 検査機会が拡大されたことにより, 保健所において検出される HIV 陽性者も多くなった。2007年には6例の陽性者について遺伝子型を検討したところサブタイプ B が5例, CRF01_AE が1例であり, 道内においてもサブタイプ B が主流であることが判明した。

○北海道における2007/08シーズンのノロウイルスによる集団胃腸炎発生状況

吉澄志磨, 田中智之¹⁾, 石田勢津子, 三好正浩, 奥井登代

武田直和編, 厚生労働科学研究費補助金(食品の安心・安全確保推進研究事業)「食品中のウイルスの制御に関する研究」平成19年度総括・分担研究報告書, 国立感染症研究所, 東京, 平成20年4月, pp.71-79

2007/08シーズンに発生した集団胃腸炎104事例(食中毒4例, 感染症100例)について, 患者から検出されたノロウイルスの遺伝子型を指標とした分子疫学的解析を行い, 過去シーズンとの比較を行った。

¹⁾堺市衛生研究所

生物科学部

○エキノコックス成虫 cDNA ライブラリーを基盤とした感染イヌ対策法の検討

八木欣平

平成19年度科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究実績報告書, 北海道立衛生研究所, 札幌, 平成20年3月

多包条虫の cDNA ライブラリーの中から新規の遺伝子(*emY162*)を発見した。この遺伝子の構造を明らかにし, 組換えタンパクを作成, 中間宿主動物において防御抗体を誘導することなどを明らかにした。

○多包性エキノコックス症の感染予防および治療に有用な抗体医薬の研究開発

後藤明子

平成19年度科学研究費補助金(若手研究 B) 研究実績報告書, 北海道立衛生研究所, 札幌, 平成20年3月

多包性エキノコックス症の診断や治療法の開発・改良に有用と考えられるモノクローナル抗体を遺伝子工学的手法を用いて作製するため, 多包虫に感染したマウスの抗体遺伝子の cDNA ライブラリーを構築した。